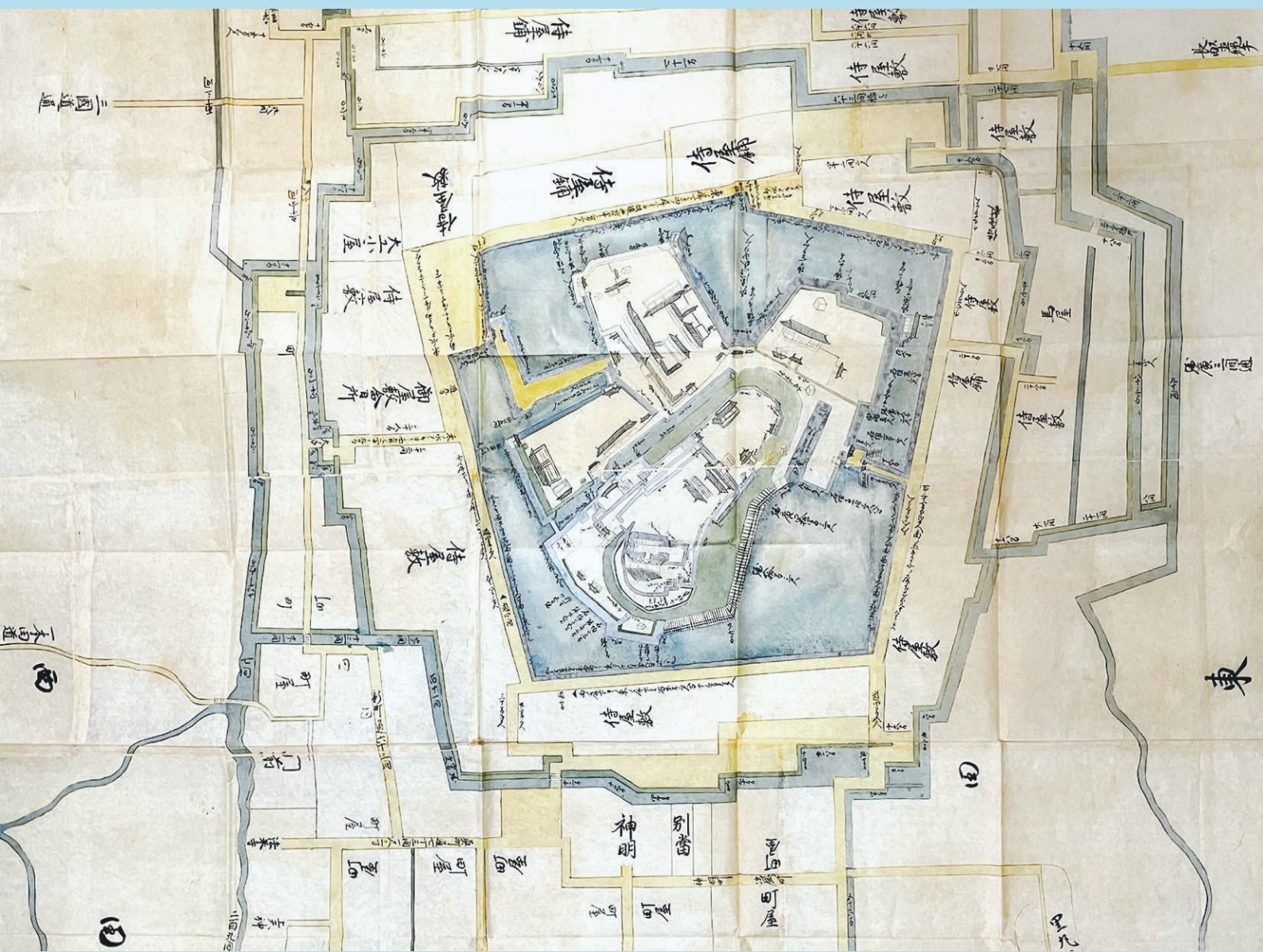


丸岡城周辺整備基本計画

概要版



坂井市

丸岡城整備基本計画策定の趣旨

人口減少が進み、社会情勢が著しく変化している状況の中、関係人口・交流人口の増加に繋がる観光地を軸とした施策が未来に先んじて必要であると考え、丸岡城の歴史・文化財的価値を高めながら、地域コミュニティの醸成と周遊性の向上を目指す魅力ある観光地を実現するために、丸岡城周辺の観光まちづくりにおいて、50年後の将来を見据え、大きな方向性を新たに打ち出す「丸岡城周辺整備基本計画」を策定しました。

50年後を見据えた段階的な取り組み

計画期間は50年間とし、「短期」「中期」「長期」に分けて推進を図ります。

短期 5年間(2021年～2025年)

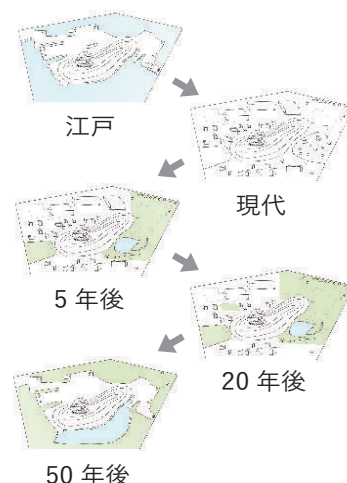
内堀五角形内の霞ヶ城公園とその周辺整備を実行し、市民や来訪者に丸岡城周辺の今後の変化を印象づける強力な第一歩に！

中期 15年間(2026年～2040年頃)

内堀五角形内および外堀周辺に対象範囲を拡張し、おもてなし城下町の面的な広がりをつくと共に、天守を中心とした丸岡らしい特色ある暮らし方の確立を！

長期 30年間(2040年頃～2070年頃)

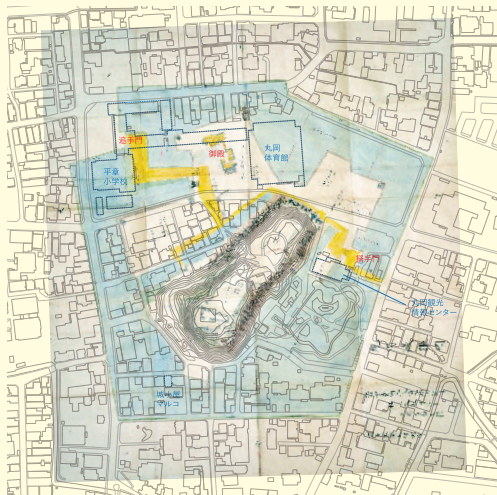
内堀五角形内の掘割再現など、時間をかけて丁寧に取り組む施策の実行を！



～目指す将来像のイメージ～

丸岡城は全国でも類を見ない、まちとの距離が近い、市民にとって“すぐそこにある”身近な天守です。

市民が丸岡城をまちのシンボルとして誇りに思い、丸岡のより良い未来を思い描き、城周辺の魅力を実感できる特徴ある整備と、市民の活発な活動が両輪となって進む観光まちづくりを積み重ねることで、丸岡城と城周辺の価値を高め、次世代へと繋げていきます。



「目指す将来像イメージ」

「将来像の根拠とした現代図と陸軍省城絵図の重ね図」

出典:「丸岡城郭図」(『陸軍省城絵図』)しろはく古地図と城の博物館富原文庫蔵 画像提供: 戎光祥出版株式会社

丸岡城整備基本計画の基本的な考え方

〈1〉内堀五角形内の城郭が想像できる姿に戻しながら前進する整備

丸岡城周辺のこれまでの歴史、文化的・社会的な取り組みに敬意を払いながら、廃城令前の内堀五角形の城郭が想起される姿に少しずつ戻していく整備、天守を眺めたり天守を借景に行われる活動など、時代に合わせた楽しみ方を可能とする整備を進めていきます。

〈2〉50年後の未来に向けた段階的な整備

丸岡城周辺の賑わい創出と、文化的資源の継承・活用のバランスを保ちながら、効果的で成果の見える段階的な整備を積み上げていきます。

〈3〉促して繋げていく賑わいづくりの共創

拠点整備を着実にいきなり、市民の主体的な参加を促し、市民が活動や多様な経済活動を楽しみながら持続的に行うことができる仕組みをつくり、公有地整備と丸岡城下町の賑わい創出を一体化させて推進していきます。

将来像実現のための方針

方針 1 公共施設の再配置

- 丸岡エリアを取り巻く社会構造の変化、既存建物の耐久年数などを考慮して、機能の再配置、統廃合を検討しながら、城郭を活かしたまちの骨格・構造の強化を図っていきます。

方針 2 歴史的価値の継承と未来の価値創造の両立

- 丸岡城天守の歴史的価値を、市民や来訪者と広く共有し、文化的資源として城郭の価値を高めていきます。
- 歴史を尊重しながらも時代にあった、丸岡らしさを打ち出す特色あるエリアを形成していきます。
- 内堀五角形内の発掘調査を順に実施し、成果を城郭の復元計画に繋げるとともに、可能な限り遺構を展示していきます。
- 天守への視点場を確保し、残されている城郭の構造を活かした整備や修景により、城下町風情を感じられる街並みをつくります。
- 丸岡城との関わりが深い保存・活用すべき資源として位置付けます。

方針 3 周遊性のあるエリアづくり

- 短期・中期・長期で集中的に賑わいを創出するエリアを定めます。
- 内堀五角形外周、外堀南側、丸岡バスターミナル

とお天守前広場を繋ぐルート为重点動線とし、人々の賑わいを創出するエリアとして位置づけます。

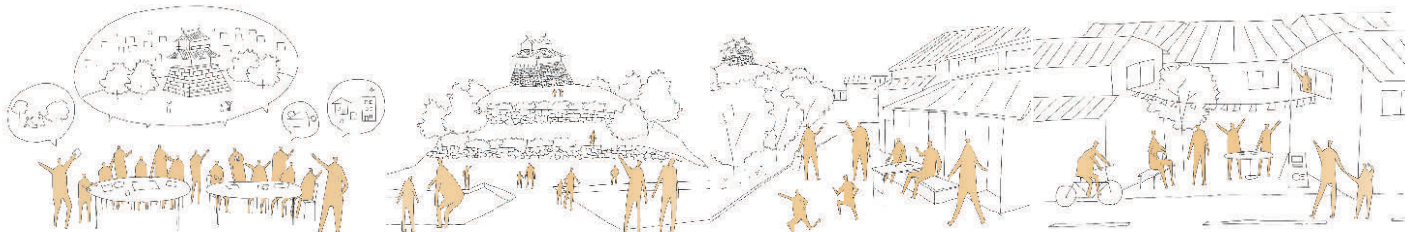
- 天守への視点場確保、遊歩道の整備、城下町風情を感じられる街並み・景観創出を推進するとともに、空き家・空き地等の民間利活用を促進する仕組みづくりを支援していきます。
- 新たな活動や生業を生み出すことのできる場づくりや観光振興を推進していきます。

方針 4 民有地とその活用について

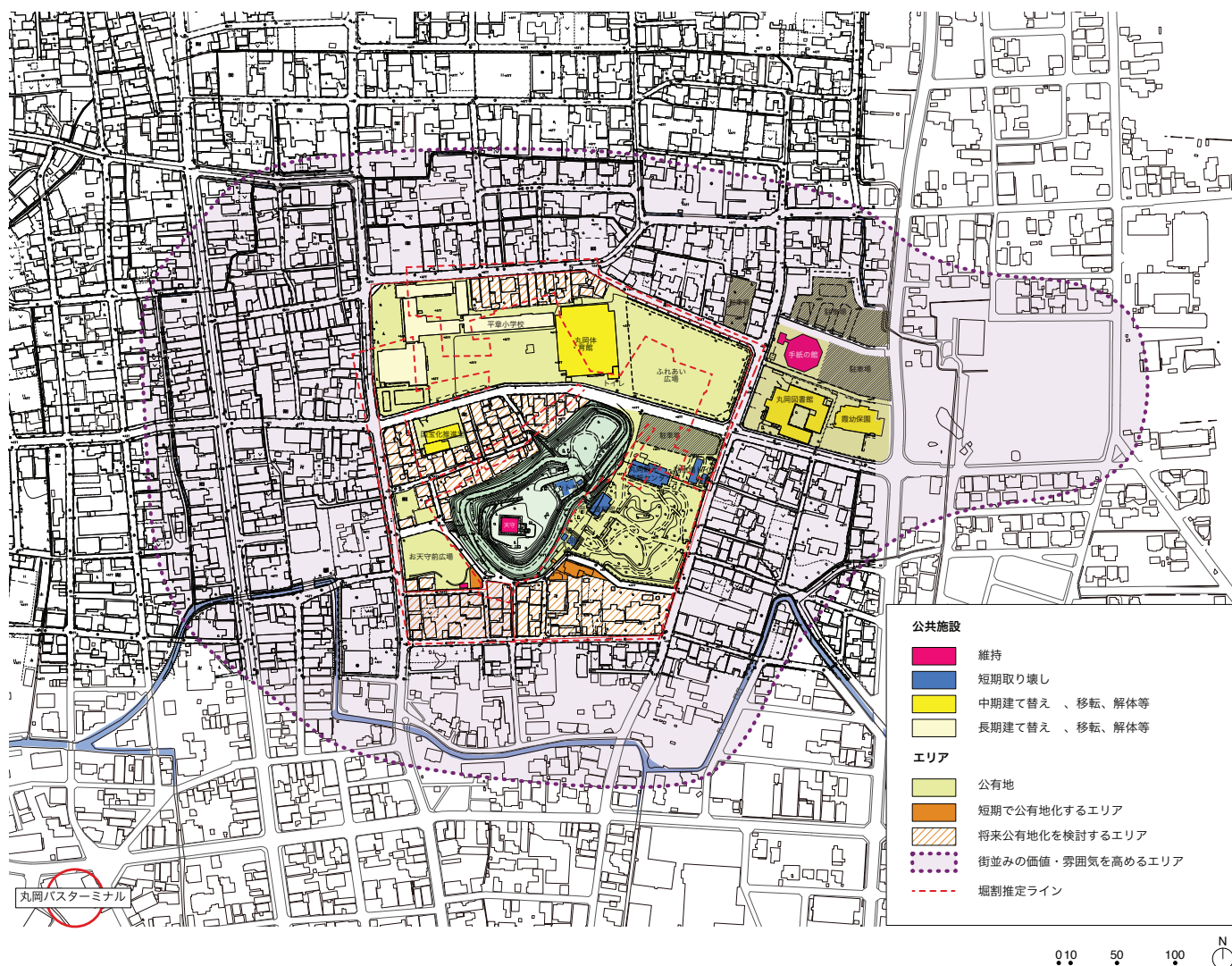
- 内堀五角形内の民有地について、住民が快適に暮らしていくための環境を維持しながら、住宅の更新時期などの節目で市に相談できる仕組みと体制を整えます。
- 条件が整う場合には、市による取得を検討します。公有地となった場合は、余白空間としてイベントや周遊の中継点で活用し、然るべき機会に発掘調査等を行い、最終的に目指す将来像の実現に融合させていきます。

方針 5 歴史文化を踏まえたまちづくりを公民共創で推進

- 整備基本計画実行の推進とその検証を行い、継続的な整備が可能となるよう努めていきます。
- 丸岡エリアのまちづくり団体などの活動が活発かつ自律的・持続的に行われるよう、連携の強化を図り、支援します。
- 公民学が共創する城周辺の賑わいづくりを目指していきます。



全体方針図



短期施策（5年間：2021年～2025年）

〈短期施策1.〉おもてなし拠点の整備『丸岡観光情報センター（仮称）』の新設

- ・歴史の継承・未来の価値創造のための施設として『丸岡観光情報センター（仮称）』を霞ヶ城公園の南東に整備
- ・天守と一体となって丸岡城を世界に発信していく拠点とし、年間100万人の来場者数を目指す

〈短期施策2.〉内堀五角形の整備

- ・公共施設の移転・統廃合・再配置
- ・霞ヶ城公園の再整備し、お堀を想起できる水辺空間へ
- ・桜が植樹された遊歩道および園路を整備して周遊性の向上へ
- ・搦手門周辺の発掘調査と遺構展示
- ・内長畝口門の復原展示、不明門の取得と復元展示について検討
- ・天守が見えるよう城山樹木の適切な管理
- ・防犯・防火等の強化に向けた城山の整備計画、舗装された登城路の再整備検討
- ・夜間の景観創出
- ・お天守前広場の賑わい創出
- ・空き家、空き地等、状況や機会により、市が取得を検討。公有地後は芝生化し、余白空間として周遊の中継点やイベントなどで活用